まなびポケット学力調査（CBT）

教職員様・児童生徒様向け

成績フィードバックのご紹介

2023年3月29日版

フィードバックの種類は2つ

教職員様・児童生徒様向けの**即時フィードバック**と教育委員会様、教職員様、児童生徒様向けの**総合フィードバック**の2種類がございます。総合フィードバックについては約1ヶ月間の受検期間終了日の翌日から確認が可能です。

アカウント種類	即時フィードバック	総合フィードバック
教育委員会	—	○
教職員（学校管理者含む）	○	○
児童生徒	○	○

各フィードバック概要

即時フィードバックと総合フィードバックの内容については下記となります。

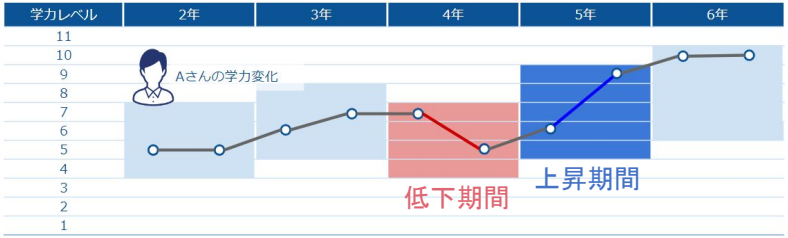
アカウント種類	即時フィードバック	総合フィードバック
教育委員会	―	各学校・学年ごとなどの正誤/正答率/IRT分析による団体帳票
教職員（学校管理者含む）	正誤/正答率/IRT分析による児童生徒の個人帳票	学校内における学年ごとの正誤/正答率/IRT分析による団体帳票 ※全体平均正答率などが追加された個人帳票も確認可能
児童生徒	正誤/正答率/IRT分析による個人帳票	全体平均正答率などが追加された個人帳票

学力変化のIRT分析の概要

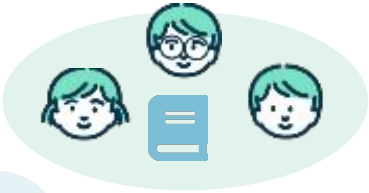
まなびポケット学力調査（CBT）では、OECDがPISAで採用している項目反応理論**IRT**(Item Response Theory)により、従来の素点や偏差では難しかった**通年・経年での学力変化の計測**を行うことが可能です。

IRTによる学力変化計測

ある生徒の学力変化



学力変化の状況を確認ができ、日々の教材活用状況などと比較することで上昇・低下要因特定の参考に。



学力変化の分析の結果から
有効な対応策を打てた！

まなびポケット学力調査（CBT）のレベル判定（1）

各学年で取り得る**学力レベル判定を6段階で判定**しています。

【例】小学校6年生
取り得る学力レベル範囲：レベル5～レベル10
※画像の水色枠（赤枠）が学力レベル範囲

【小学校レベル範囲】

学年	下層	中層	上層
小学校2年生	1～2	3～4	5～6
小学校3年生	2～3	4～5	6～7
小学校4年生	3～4	5～6	7～8
小学校5年生	4～5	6～7	8～9
小学校6年生	5～6	7～8	9～10

【中学校レベル範囲】

学年	下層	中層	上層
中学校1年生	5～6	7～8	9～10
中学校2年生	6～7	8～9	10～11
中学校3年生	7～8	9～10	11～12

まなびポケット学力調査（CBT）のレベル判定（2）

6段階を**上層・中層・下層**で分けることで指導改善の目安に活用しやすい設計としました。

階層	基礎定着の傾向
上層	十分な基礎定着がみられる傾向
中層	基礎の定着が概ね見られ始めているが 躓きがある分野もある傾向
下層	基礎での学び残しが多い傾向

※上記はあくまで傾向になります。実際の個票をご確認の上ご判断ください。

フィードバックの効果的な活用例（教職員様向け）

まなびポケット学力調査（CBT）を初めて実施したケースと複数回実施しているケースで活用方法のバリエーションも変わってきます。

	個々の児童生徒向け活用	学年向け活用
初導入校	児童生徒の個票結果から、**どの領域・観点に課題があるのか/どの学力レベル**に該当する生徒なのかなどを確認し個別支援を実施	①学年全体平均正答率と調査全体での平均正答比較が可能なため、**自校の課題分野や領域・観点が確認でき**指導改善等に生かすことが可能 ②**学力レベル分布図で下層割合が多い場合**は、基礎固め中心の指導を行うなど示唆として活用
複数回次導入校	上記に加えて、**前回次からの学力レベルの伸びがどうだったか**を確認することで**現行の学習方法や教材活用がその子に適切だったかなど**を確認し個別支援を実施	上記に加えて、**前回次からの学力レベルの伸びがどうだったか**を確認することで、**過去の指導方法が適切であったか/施策が有効的だったか**のエビデンスとして活用（新規施策/指導改善活用）

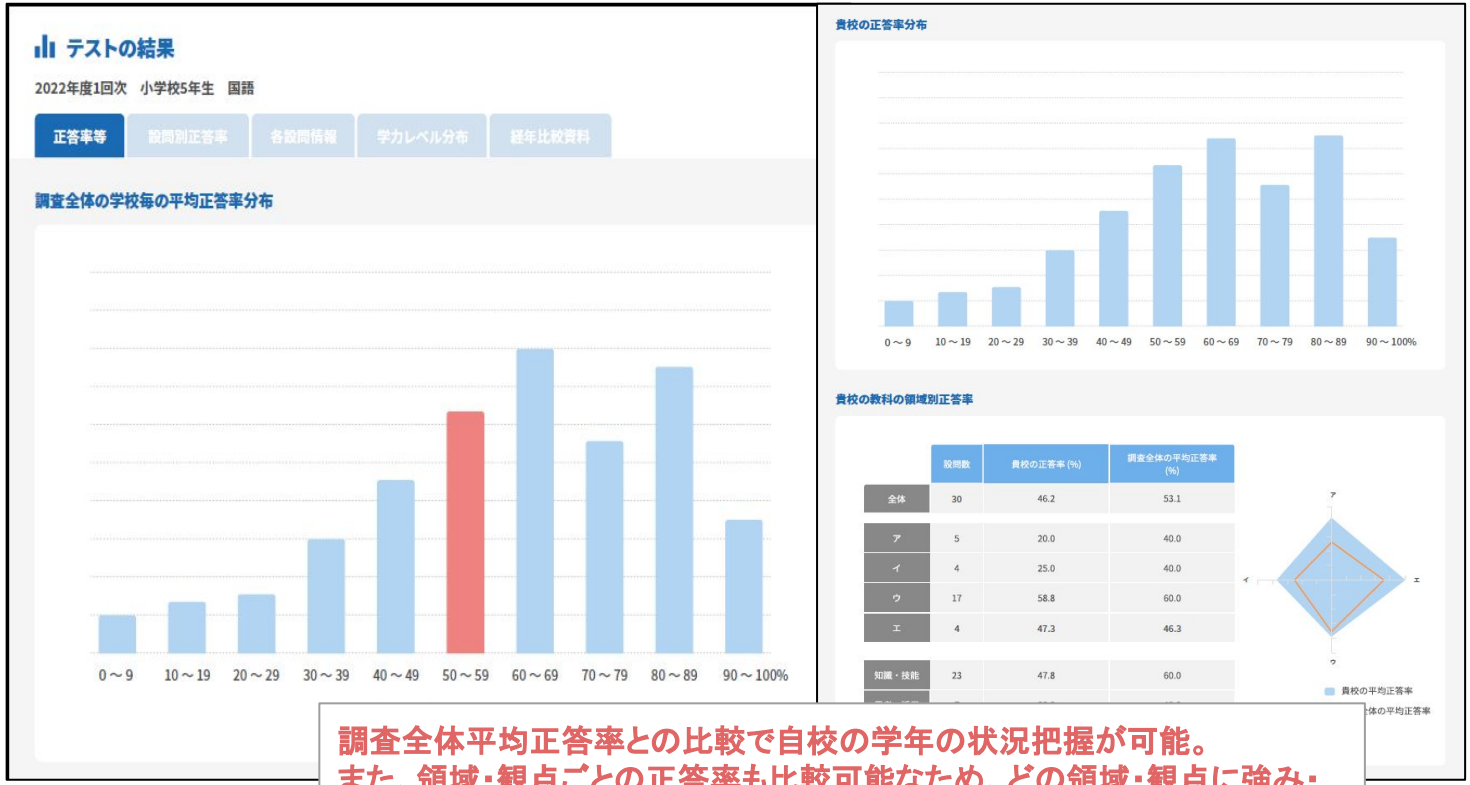
フィードバックの効果的な活用例（児童生徒様向け）

まなびポケット学力調査（CBT）を初めて実施したケースと複数回実施しているケースで活用方法のバリエーションも変わってきます。

フィードバック活用例	
初導入	①設問ごとの観点や意図/難しさ/正誤を確認し、**得意・苦手な分野の傾向を掴む**ことで日々の学習改善に生かす ②**学校平均や調査全体平均とを比較**することで自身の状況を客観的に把握・振り返り
複数回次導入	①設問ごとの観点や意図/難しさ/正誤を確認し、**得意・苦手な分野の傾向を掴む**ことで日々の学習改善に生かす ②**学校平均や調査全体平均とを比較**することで自身の状況を客観的に把握・振り返り ③**前回次から学力レベルがどのように変化しているかを**確認し、日々の学習方法などが効果的であったかの振り返り・改善を検討

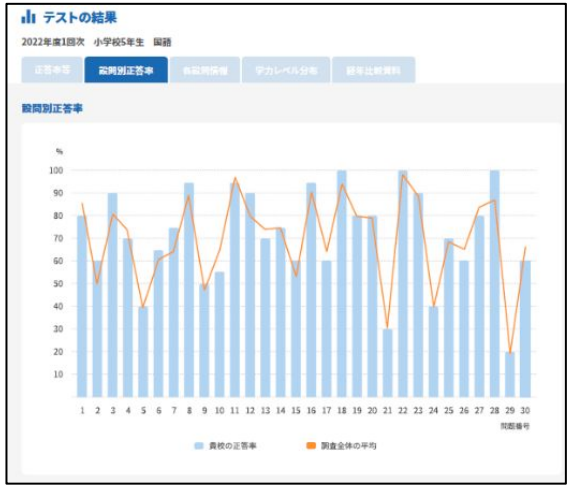
教職員向けフィードバック画面

1. 正答率等



調査全体平均正答率との比較で自校の学年の状況把握が可能。
また、領域・観点ごとの正答率も比較可能なため、どの領域・観点に強み・弱みがあるかも一目で確認が可能。

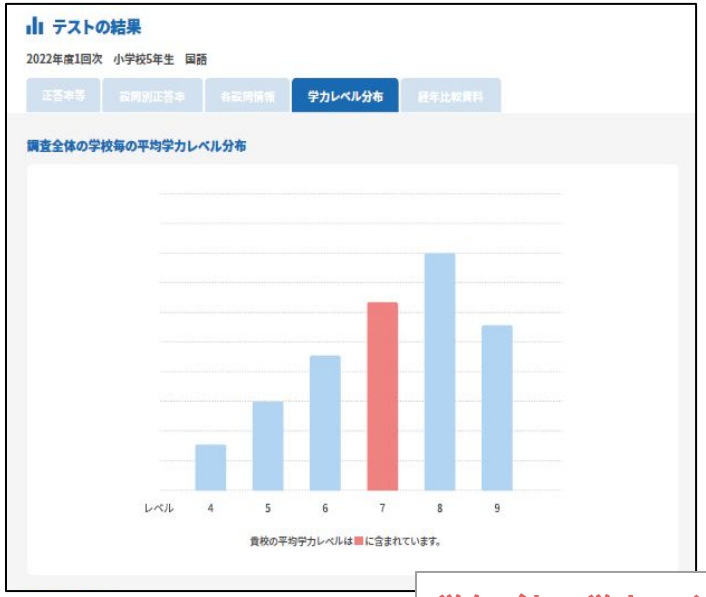
2. 設問別正答率・各設問情報

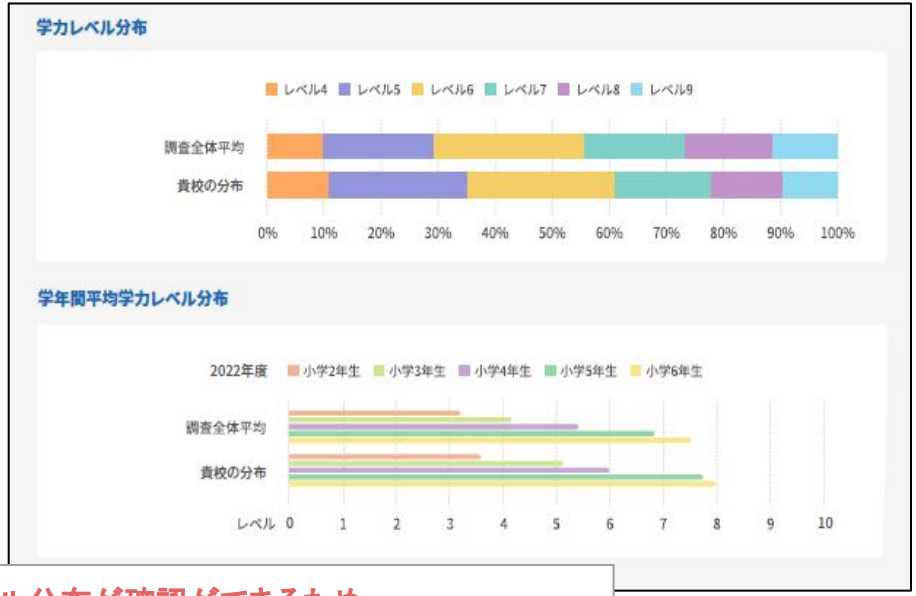


	問題の概要	教科の領域等 A	B	C	D	評価の観点	むずかしさのレベル	貴校 正答率(%)	貴校 無回答率(%)	調査全体 正答率(%)	調査全体 無回答率(%)
1	漢字を読む（音＋音の熟語）			●		知識・技能	6	88.3	0.0	86.9	0.3
2	漢字を書く（漢字の部）				●	知識・技能	7	90.3	1.0	93.8	0.5
3	漢字を書く（漢字の部）				●	思考・活用	6	91.3	0.0	91.5	0.0
4	漢字を読む（音＋音の熟語）			●		思考・活用	4	86.0	2.0	85.5	1.8
5	漢字を書く（漢字の部）		●			知識・技能	5	79.7	4.0	74.8	3.7
6	漢字を書く（漢字の部）			●		知識・技能	4	82.9	2.0	80.0	3.0
7	漢字を読む（音＋音の熟語）		●			知識・技能	4	86.0	2.3	86.1	2.8
8	漢字を書く（漢字の部）	●				知識・技能	5	64.3	4.6	59.6	4.9
9	漢字を書く（漢字の部）		●			知識・技能	5	66.5	4.1	65.0	4.5
10	漢字を読む（音＋音の熟語）				●	知識・技能	4	90.0	0.5	89.4	0.3
11	漢字を書く（漢字の部）				●	知識・技能	4	91.7	0.2	90.0	0.4
12	漢字を書く（漢字の部）			●		思考・活用	4	90.2	0.0	88.5	1.1
13	漢字を読む（音＋音の熟語）		●			思考・活用	4	88.1	1.3	88.1	1.2
14	漢字を読む（音＋音の熟語）				●	思考・活用	4	81.0	1.6	80.4	1.8
15	漢字を書く（漢字の部）				●	思考・活用	4	93.0	0.4	92.6	0.3
16	漢字を読む（音＋音の熟語）			●		思考・活用	5	58.3	5.2	61.0	4.6
17	漢字を書く（漢字の部）			●		思考・活用	6	58.0	5.0	57.8	5.3
18	漢字を書く（漢字の部）				●	思考・活用	4	83.9	2.0	80.7	2.0
19	漢字を読む（音＋音の熟語）		●			知識・技能	4	80.7	1.6	80.2	1.8
20	漢字を書く（漢字の部）				●	知識・技能	4	91.5	0.7	90.2	0.5

設問別正答率と各設問情報を比較することで、
学年内でどの分野・領域・観点などに課題があるかを特定可能。

3. 学力レベル分布



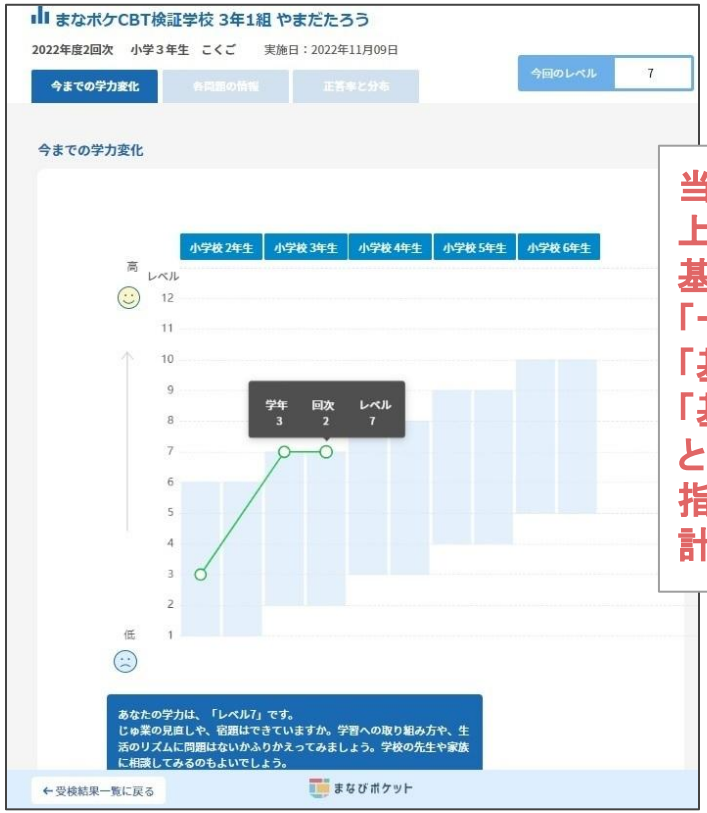


学年ごとの学力レベル分布が確認ができるため、
下層・中層・上層割合が一目で確認が可能。
また、調査全体平均と学年間での学力レベル分布比較も可能なため、どの学年に課題がありそうかも確認が可能。

4. 経年比較資料

学年平均と調査全体平均との比較が可能。
また、前年度も受検済の場合は、前年度回次との比較も可能なため、施策効果があったのか/指導は適切だったのか等の確認も可能。

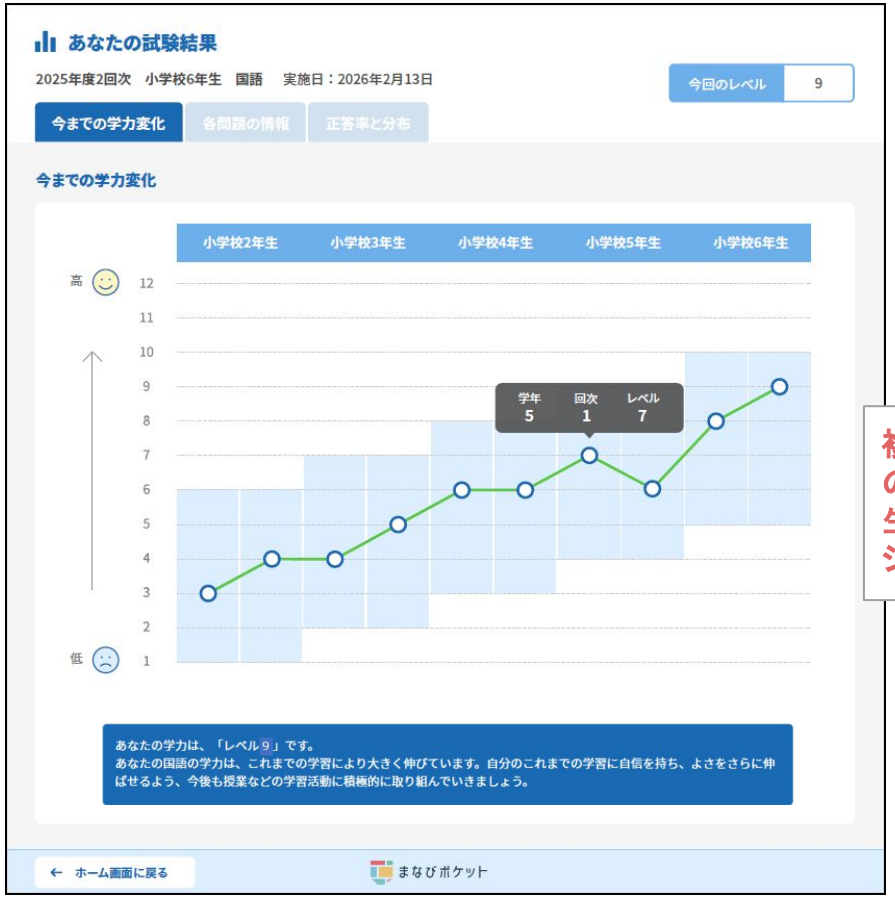
5. 生徒別個票（受検状況確認から個票確認が可能）



当該学年で取り得るレベルの範囲が6段階で設定。
上層・中層・下層に分けることで、
基礎定着傾向を、
「十分な基礎定着がみられる」傾向
「基礎の定着が概ねみられるが、躓き分野もある」傾向
「基礎での学び残しが多い」傾向
という形で区分できるため、
指導改善の目安もしやすい設計（個別支援に生かしやすい設計）としています。

児童・生徒向けフィードバック画面

1. 今までの学力変化



複数回次を受検されている場合は、過去回次レベルからの推移も掲載。
生徒の努力が推移として現れるため、学びへのモチベーションアップに繋がります。

2. 各問題の情報

あなたの試験結果

2022年度1回次　小学校6年生　国語　実施日：2022年5月16日

今回のレベル 10

今までの学力変化 | 各問題の情報 | 正答率と分布

各問題の情報

A：話すこと・聞くこと　B：書くこと　C：読むこと　D：伝統的な言語文化と国語の特質に関すること

大問	小問	問題の概要	A	B	C	D	評価の観点	むずかしさのレベル	正誤	学校平均正答率(%)	全体平均正答率(%)
1	1	漢字を読む（音＋音の熟語）				○	知識・技能	6	●	80.2	85.0
	2	漢字を読む（音＋音の熟語）				○	知識・技能	5	●	89.1	82.4
	3	漢字を書く（漢字の訓）				○	知識・技能	6	●	49.5	60.5
2	1	文章中の空欄に当てはまる擬態語として適切なものを選択する				○	思考・活用	6	●	89.1	93.1
	2	一文の中で熟語に対する主語を文中から書きぬく		○			思考・活用	6	●	93.6	75.2
	3	一文の中で修飾語に対応する被修飾語を選択する	○				思考・活用	7	×	17.4	36.9
3	1	4つの文の中で敬語の使い方がまちがっているものを選択する	○				思考・活用	8	●	96.5	79.6
	2	文末を敬語（尊敬語）に直して書く			○		知識・技能	5	●	39.3	35.5
4	1	いろいろな働きを持つ言葉の中で同じ働きで使われている言葉を選択する				○	思考・活用	6	●	85.4	85.0
	2	いろいろな働きを持つ言葉の中で同じ働きで使われている言葉を選択する				○	思考・活用	7	●	99.2	98.3
5	1	二字熟語の同じ構成の熟語を選択する				○	思考・活用	5	●	80.2	84.9
	2	二字熟語の同じ構成の熟語を選択する				○	思考・活用	6	●	80.2	55.1
6	1	同音異義語の中から文脈に合うものを選択する				○	知識・技能	6	×	80.2	97.8
	2	同訓異字の中から文脈に合うものを選択する				○	知識・技能	5	●	37.3	49.4
7	1	文中にあてはまる適切な対義語を選択する				○	思考・活用	7	×	75.6	58.2
	2	文中にあてはまる適切な慣用句を選択する				○	思考・活用	5	●	80.2	56.4

試験終了後に結果をすぐに確かめることができます。
設問ごとの観点や意図、難しさ、正誤を見て得意・苦手な分野の傾向をつかむことに利用できます。

また、全調査期間終了後には、学校・全体平均との比較も可能なため、自身の学力状況把握も可能。
※左画像は全調査期間終了後の総合フィードバック

3. 正答率と分布

あなたの試験結果

2022年度1回次　小学校6年生　国語　実施日：2022年5月16日

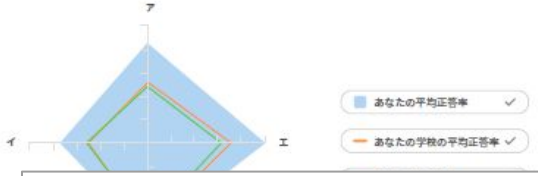
今回のレベル　10

今までの学力変化　各問題の情報　正答率と分布

あなたの正答率と分布

	あなたの正答した問題数	テストの問題数	あなたの正答率(%)	あなたの学校の平均正答率(%)	全体の平均正答率(%)
全体	25	30	83.3	65.4	53.1
ア	5	6	83.3	53.8	51.9
イ	6	8	75.0	50.6	51.1
ウ	7	9	77.8	72.3	70.2
エ	7	7	100	72.3	68.5
知識・技能	14	18	77.8	71.4	67.2
思考・活用	11	12	91.7	68.3	54.8

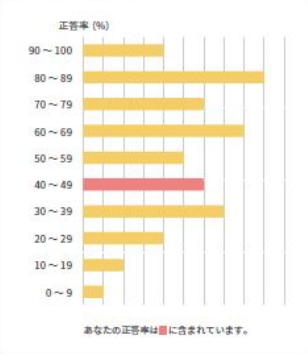
※ア：知識・技能　イ：話すこと・聞くこと　ウ：書くこと　エ：読むこと



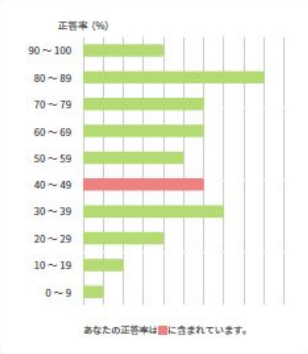
領域別評価

領域名	学習に関するアドバイス
ア：知識・技能	知識・技能に関しては、大変よくできました。さらに力をのばすために、、、
イ：話すこと・聞くこと	話すこと・聞くことに関しては、よくできました。さらに力をのばすために、、、
ウ：書くこと	書くことに関しては、他の領域に比べてできています。さらに力をのばすために、、、
エ：読むこと	読むことに関しては、頑張りが必要です。さらに読む力をのばすために、、、

あなたの学校の正答率分布



調査全体の正答率分布



領域・観点ごとの正答率が表示され、得意・苦手分野が把握しやすい設計に。
また、レベル・正答率に応じたコメント表示で学びのモチベーションをUPを支援。
調査全体平均・学校平均とも比較が可能なため、自身の学力状況把握も可能。